

特集：我々の教育システム情報学マップ：問いの体系化の共有に向けて

## 教育システム情報学研究の知識体系化を目指して

田中 孝治\*, 東本 崇仁\*\*, 光原 弘幸\*\*\*

### Kick-Off of Knowledge Systematization for Studies in JSiSE

Koji TANAKA\*, Takahito TOMOTO\*\*, Hiroyuki MITSUHARA\*\*\*

The group 1 in the map working group plays a leading role to discuss an iSE map for JSiSE internal member as target users. The purpose of this paper was (1) sharing discussion process of constructing the iSE map, and (2) providing readers with starting points of knowledge systematization for studies in JSiSE. This paper tries to assemble some concepts used by studies in JSiSE from a perspective of JSiSE editorial board. The assembling is not entirely correct and just getting underway in a long journey. In the near future, we plan to build JSiSE research ontology. Therefore, we strongly aspire to discuss with other subgroups and readers.

キーワード：教育システム情報学マップ，リサーチクエスション，オントロジー

“PKを外すことができるのは、PKを蹴る勇気を持った者だけだ（ロベルト・バジジョ）”

#### 1. はじめに

上記の言葉は、サッカー元イタリア代表の選手の言葉である。筆頭著者がこの言葉を初めて聞いたのは1994年のことであり、その後もたびたび耳にする。直近では、2022FIFAワールドカップにおいて、日本代表がPK戦で敗れた際にも、ネット界限を中心に取り沙汰された。そんな2022年冬、本稿の著者らは、教育システム情報学マップ（以下、iSEマップ）の作成を目指すワーキンググループ（以下、マップWG）のサブグループとして集い、「教育システム情報学会において研究活動をしている研究者や学生をユーザに想定したiSEマップはどのようなものか？」という問いの解を模索し始めた。なお、この「問い」は、本解説特集の扉でも述べられているように、2022年8月

の教育システム情報学会（以下、JSiSE）全国大会において、マップWGにより企画・開催されたプレカンファレンスの議論から放たれたパスである（注1）。

マップWGでは、iSEマップ作成までのプロセス（議論や迷い、失敗など）を記録として残し、「11人目のメンバー」<sup>(1)</sup>である読者のみなさまに開示していくことも重要なミッションとされる。そこで本稿では、この「問い」に対するサブグループ内での議論の概要（2章）と、「問い」に挑むための出発点として実施した教育システム情報学の概念整理（3章）について論じる。

#### 2. 教育システム情報学とは何かをめぐって

##### 2.1 議論の経緯

JSiSEにおいて研究活動をしている研究者や学生をユーザとして想定するとすると、やはり「教育システム情報学とは何か？」という基盤的問いの検討は避けられず、この基盤的問いの議論は尽きないが故

\* 金沢工業大学情報フロンティア学部（College of Informatics and Human Communication, Kanazawa Institute of Technology）

\*\* 東京工芸大学（Tokyo Polytechnic University）

\*\*\* 徳島大学大学院社会産業理工学研究部（Graduate School of Technology, Industrial and Social Sciences, Tokushima University）